

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	令和7年2月14日
【中間会計期間】	第71期中（自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日）
【会社名】	株式会社三東工業社
【英訳名】	SANTO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 奥田 克実
【本店の所在の場所】	滋賀県甲賀市信楽町江田610番地 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	滋賀県栗東市上鉤480番地
【電話番号】	077(553)1111
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 矢森 貞行
【縦覧に供する場所】	株式会社三東工業社大阪支店 （大阪市天王寺区東高津町11番7号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 中間連結会計期間	第71期 中間連結会計期間	第70期
会計期間	自令和5年7月1日 至令和5年12月31日	自令和6年7月1日 至令和6年12月31日	自令和5年7月1日 至令和6年6月30日
売上高 (千円)	3,993,320	3,509,931	7,400,143
経常利益 (千円)	235,287	174,784	208,252
親会社株主に帰属する中間 (当期)純利益 (千円)	150,199	106,358	132,314
中間包括利益又は包括利益 (千円)	148,934	104,823	152,898
純資産額 (千円)	3,205,927	3,269,339	3,209,891
総資産額 (千円)	5,275,306	5,115,983	4,516,883
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	243.79	171.33	214.43
潜在株式調整後1株当たり中間 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.1	63.0	70.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	944,809	289,865	499,383
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	8,831	94,476	65,008
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	440,321	427,062	70,566
現金及び現金同等物の中間期末 (期末)残高 (千円)	1,416,471	1,337,552	1,294,831

- (注) 1.当社は、中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2.潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、半導体市況の改善や自動車生産の回復などにより、徐々に持ち直しております。個人消費については、家計の低価格志向の強まりが懸念されるものの、実質賃金のプラスが続き所得環境に改善の動きがみられます。

一方、建設業界につきましては、新設住宅着工戸数が2か月連続で増加したものの、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は5か月ぶりに大幅減少し、公共工事の請負金額が2か月連続かつ大幅減少しております。

このような経済状況下、当社グループは、現場力の強化、経費削減及びリスク管理の強化を重点的に取り組み、競争力を高める努力をしております。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高3,509百万円（前年同期比12.1%減）、営業利益170百万円（前年同期比26.3%減）、経常利益174百万円（前年同期比25.7%減）、親会社株主に帰属する中間純利益106百万円（前年同期比29.2%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

土木事業

土木事業の完成工事高は2,193百万円（前年同期比2.8%減）、セグメント利益173百万円（前年同期比27.7%減）となりました。

建築事業

建築事業の完成工事高は1,291百万円（前年同期比24.9%減）、セグメント損失16百万円（前年同中間期は、18百万円のセグメント損失）となりました。

環境開発事業

環境開発事業の売上高は24百万円（前年同期比40.9%増）、セグメント利益13百万円（前年同期比32.6%増）となりました。

財政状態の状況は次のとおりであります。

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は、3,842百万円となり、前連結会計年度末に比べ530百万円増加いたしました。これは主に受取手形・完成工事未収入金等が479百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、1,273百万円となり、前連結会計年度末に比べ68百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が83百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、5,115百万円となり、前連結会計年度末に比べ599百万円増加いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は、1,740百万円となり、前連結会計年度末に比べ544百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、105百万円となり、前連結会計年度末に比べ5百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は、1,846百万円となり、前連結会計年度末に比べ539百万円増加いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、3,269百万円となり、前連結会計年度末に比べ59百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は63.0%（前連結会計年度末は70.2%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に対し42百万円増加し、1,337百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は289百万円(前年同期は944百万円の使用)となりました。これは、主として売上債権の増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は94百万円(前年同期は8百万円の使用)となりました。これは、主として有形固定資産の取得によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は427百万円(前年同期は440百万円の獲得)となりました。これは、主として短期借入れによる収入です。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当中間連結会計期間における研究開発活動の金額は、11百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,200,000
計	2,200,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在発行 数(株) (令和6年12月31日)	提出日現在発行数(株) (令和7年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	686,000	686,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	686,000	686,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
令和6年7月1日～ 令和6年12月31日	-	686,000	-	849,500	-	625,900

(5) 【大株主の状況】

令和6年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
有限会社東物産	滋賀県草津市西渋川1丁目6-3	88	14.15
三東工業社従業員持株会	滋賀県栗東市上鉤480番地	35	5.74
中川 徹	滋賀県草津市	32	5.26
株式会社滋賀銀行	滋賀県大津市浜町1番38号	28	4.50
三東工業社協力会持株会	滋賀県栗東市上鉤480番地	20	3.28
奥田 克実	京都市左京区	19	3.10
東 一孝	滋賀県甲賀市	18	2.91
中川 千秋	滋賀県草津市	17	2.83
大西 藤司	滋賀県甲賀市	16	2.65
大洋基礎工業株式会社	名古屋市中区柳森町107	16	2.57
計	-	292	46.99

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

令和6年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 63,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 620,700	6,207	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	686,000	-	-
総株主の議決権	-	6,207	-

【自己株式等】

令和6年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
株式会社三東工業社	滋賀県甲賀市信楽町 江田610番地	63,500	-	63,500	9.26
計	-	63,500	-	63,500	9.26

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（令和6年7月1日から令和6年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表について、ひかり監査法人による期中レビューを受けております。

1【中間連結財務諸表】

(1)【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年6月30日)	当中間連結会計期間 (令和6年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,589,904	1,642,625
受取手形・完成工事未収入金等	1,424,042	1,903,513
販売用不動産	259,704	259,704
貯蔵品	1,001	1,293
その他	37,592	35,872
貸倒引当金	570	570
流動資産合計	3,311,676	3,842,439
固定資産		
有形固定資産	768,881	852,827
無形固定資産	31,027	29,875
投資その他の資産		
その他	424,786	410,329
貸倒引当金	19,488	19,488
投資その他の資産合計	405,298	390,840
固定資産合計	1,205,207	1,273,544
資産合計	4,516,883	5,115,983
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	788,644	879,943
短期借入金	-	500,000
未払法人税等	22,092	69,048
完成工事補償引当金	3,400	3,600
未成工事受入金	232,092	174,119
その他	149,606	114,015
流動負債合計	1,195,835	1,740,727
固定負債		
退職給付に係る負債	15,481	15,481
その他	95,676	90,436
固定負債合計	111,157	105,917
負債合計	1,306,992	1,846,644
純資産の部		
株主資本		
資本金	849,500	849,500
資本剰余金	635,388	641,707
利益剰余金	1,742,899	1,787,455
自己株式	155,810	145,702
株主資本合計	3,071,977	3,132,960
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	100,207	89,390
その他の包括利益累計額合計	100,207	89,390
非支配株主持分	37,706	46,988
純資産合計	3,209,891	3,269,339
負債純資産合計	4,516,883	5,115,983

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)
売上高		
完成工事高	3,975,595	3,484,951
環境開発事業等売上高	17,724	24,979
売上高合計	3,993,320	3,509,931
売上原価		
完成工事原価	3,475,350	3,024,896
環境開発事業等売上原価	7,058	10,814
売上原価合計	3,482,408	3,035,711
売上総利益		
完成工事総利益	500,244	460,055
環境開発事業等総利益	10,666	14,164
売上総利益合計	510,911	474,219
販売費及び一般管理費	279,213	303,411
営業利益	231,698	170,808
営業外収益		
受取利息	85	126
受取配当金	1,679	1,569
その他	3,185	4,194
営業外収益合計	4,950	5,890
営業外費用		
支払利息	215	1,158
その他	1,145	755
営業外費用合計	1,361	1,914
経常利益	235,287	174,784
特別利益		
固定資産売却益	-	1,992
特別利益合計	-	1,992
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前中間純利益	235,287	176,777
法人税等	78,784	61,136
中間純利益	156,503	115,641
非支配株主に帰属する中間純利益	6,303	9,282
親会社株主に帰属する中間純利益	150,199	106,358

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)
中間純利益	156,503	115,641
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,568	10,817
その他の包括利益合計	7,568	10,817
中間包括利益	148,934	104,823
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	142,631	95,540
非支配株主に係る中間包括利益	6,303	9,282

(3)【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	235,287	176,777
減価償却費	30,914	30,101
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	2,800	200
受取利息及び受取配当金	1,764	1,696
支払利息	215	1,158
固定資産売却損益(は益)	-	1,992
固定資産除却損	-	0
売上債権の増減額(は増加)	926,830	479,470
棚卸資産の増減額(は増加)	84	291
仕入債務の増減額(は減少)	255,227	91,299
未成工事受入金の増減額(は減少)	417,228	57,972
その他	51,275	34,335
小計	878,338	276,222
利息及び配当金の受取額	1,764	1,696
利息の支払額	215	1,158
法人税等の支払額	68,019	14,180
営業活動によるキャッシュ・フロー	944,809	289,865
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	295,072	305,073
定期預金の払戻による収入	295,072	295,072
有形固定資産の取得による支出	5,229	85,183
有形固定資産の売却による収入	-	3,518
その他	3,601	2,811
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,831	94,476
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	500,000	500,000
配当金の支払額	55,216	61,802
その他	4,461	11,135
財務活動によるキャッシュ・フロー	440,321	427,062
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	513,319	42,720
現金及び現金同等物の期首残高	1,929,790	1,294,831
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,416,471	1,337,552

【注記事項】

(中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算方法)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)
役員報酬	51,658千円	54,299千円
従業員給料及び手当	92,441	97,591
退職給付費用	1,820	1,457

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)
現金及び預金勘定	1,711,544千円	1,642,625千円
預入期間が3か月を超える定期預金	295,072	305,073
現金及び現金同等物	1,416,471	1,337,552

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和5年9月22日 定時株主総会	普通株式	55,216	90	令和5年6月30日	令和5年9月25日	利益剰余金

当中間連結会計期間(自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和6年9月27日 定時株主総会	普通株式	61,802	100	令和6年6月30日	令和6年9月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益計算書計上額 (注)
	土木事業	建築事業	環境開発事業	計		
売上高						
官公庁	1,096,012	232,134	-	1,328,146	-	1,328,146
民間	1,160,473	1,486,975	-	2,647,449	-	2,647,449
顧客との契約から生じる収益	2,256,485	1,719,109	-	3,975,595	-	3,975,595
その他の収益	-	-	17,724	17,724	-	17,724
外部顧客への売上高	2,256,485	1,719,109	17,724	3,993,320	-	3,993,320
セグメント間の内部売上高又は振替額	-	-	-	-	-	-
計	2,256,485	1,719,109	17,724	3,993,320	-	3,993,320
セグメント利益又は損失()	239,517	18,305	10,486	231,698	-	231,698

(注) セグメント利益又は損失()の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益計算書計上額 (注)
	土木事業	建築事業	環境開発事業	計		
売上高						
官公庁	1,403,473	17	-	1,403,490	-	1,403,490
民間	790,093	1,291,368	7,860	2,089,321	-	2,089,321
顧客との契約から生じる収益	2,193,566	1,291,385	7,860	3,492,811	-	3,492,811
その他の収益	-	-	17,119	17,119	-	17,119
外部顧客への売上高	2,193,566	1,291,385	24,979	3,509,931	-	3,509,931
セグメント間の内部売上高又は振替額	-	-	-	-	-	-
計	2,193,566	1,291,385	24,979	3,509,931	-	3,509,931
セグメント利益又は損失()	173,130	16,225	13,903	170,808	-	170,808

(注) セグメント利益又は損失()の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年12月31日)
1株当たり中間純利益	243円79銭	171円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益 (千円)	150,199	106,358
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 (千円)	150,199	106,358
普通株式の期中平均株式数(千株)	616	620

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

令和7年2月14日

株式会社三東工業社

取締役会 御中

ひかり監査法人
京都事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 光田 周史

指定社員
業務執行社員 公認会計士 矢倉 誠

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社三東工業社の令和6年7月1日から令和7年6月30日までの連結会計年度の中間連結会計期間（令和6年7月1日から令和6年12月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社三東工業社及び連結子会社の令和6年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1.上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2.XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。